

# 令和6年度山梨大学教育学部附属中学校外部評価書 《資料3》

令和7年3月3日(月)

令和6年度学校関係者評価委員会 作成

## I 目標の達成状況に対する意見

今年度は「コロナ禍以前の当たり前」が戻り、学校行事をはじめとする教育活動が円滑に行われ、それらの活動が生徒の成長につながったことを認識することができた。

また、昨年度の課題であったキャリア教育について、企業と連携した職場体験の実施や山梨大学と連携した若桐講座における開設講座の拡大など、外部機関と連携することで、生徒が自らの生き方を考えるきっかけづくりを効果的に実施できていることも認識することができた。

## II 取り組みの状況に対する意見

・学校側による自己評価と保護者アンケートの結果から、ネットトラブルに関する項目の数値が低いことがわかる。これは、全国的に問題視されていることだが、学校教育でも家庭教育でも防いでいかなければならない問題である。生徒の情報モラル向上を目指し、専門的な側面から生徒の内面に訴えていくことができるように外部機関と連携して講演会を開催したり、教員も積極的に研修を受けたりするなどして、トラブル防止策を考えてほしい。また、生徒が講演会で学んだ内容や教員が研修で学んだ内容を保護者にも周知し、家庭とも連携した指導を実施してほしい。

・昨年度の課題でもあったホームページなどによる情報発信について、今年度も評価が低い結果となった。これについては、更新の頻度を上げるべきなのか、発信方法を変えるべきなのか、検討の余地はあるが、学校関係者に向けての情報と保護者に向けての情報とに分けて考えることによって、発信する方法が変わってくるので、そこをしっかりと精査して、附属中学校の情報を効果的に発信できるように努めてほしい。

・安全管理に関して、学校で活動中に災害が起きた場合は学校独自の判断によって、生徒の安全確保に差が出てしまうので、日ごろから意識して指導にあたってほしい。また、災害はいつ襲ってくるかわからないので、教室外での活動や通学途中など、様々なケースを想定した指導も行い、安全に対する意識を高めてほしい。

## III 改善方法に対する意見

・保護者アンケートの数値と学校側の自己評価の数値を項目ごとに比較分析し、改善策に基づいた実践を続けてほしい。

## IV その他

・昨年度は、保護者アンケートの回答率が80%台前半となっており、回答率上昇が課題として挙げられたが、今年度は90%台となり、保護者への情報発信を効果的に努めたことがうかがえた。保護者の意見は学校活動の根幹にかかわることなので、引き続き多くの保護者の意見を取り入れていってほしい。

記載責任者(附属中学校 学校関係者評価委員会) 氏名 山下 華代子

